

改訂にあたって

【災害対応ガイドブックの改訂版の発行にあたり】

地震などの災害は、時間や場所を選ばないと言われるとおり、いつどこで発生するかわかりません。

2024年（令和6年）1月1日、夕方、石川県能登地方で震度7の地震が発生し、新年を迎えた住民のお祝いムードは一変することとなりました。

災害による被害を軽減するためには、「行政機関等が行う対策や支援（公助）」はもとより、「日頃からの備えや自分の命は自分で守る（自助）」「自分たちの地域は自分たちで守る地域での助け合い（共助）」が欠かせません。

後にボランティア元年と呼ばれることになった、1995年（平成7年）1月に発生した阪神・淡路大震災では、地震によって倒壊した建物から自身で脱出できなかった人の約8割が、家族や近所の住民等により救出されたことが分かっています。

本市では、防災訓練や、地域・事業所等を対象とした防災に関する講座の開催、要配慮者利用施設における避難確保計画策定への支援、地域防災の要である自主防災組織の育成・強化等に取り組んでいます。

このガイドブックは、災害に関する基本的な知識、災害時の留意点、自助や共助に役立つさまざまな情報に加え、土砂災害や浸水によって、被害が想定される区域、避難所・避難場所などの防災関係施設の位置などを表示した地図を掲載しています。

このガイドブックが住民の皆さんの「災害への備え」として広く活用され、家庭や地域における防災力の強化につながることを願っています。



田川市長 村上 卓哉

改訂のポイント

避難情報に関するガイドラインが改定されました

・令和3年5月にガイドラインが改定され市が発令する避難情報が変更されています。

洪水浸水想定区域（想定最大規模）の追加

・平成28年に国が公表した「想定し得る最大規模の降雨」を地図上に示していましたが令和4年に福岡県が県管理河川（遠賀川水系中元寺川、泓川、猪位金川、金辺川、御祓川）の「想定し得る最大規模の降雨」により河川が氾濫して洪水が起きた場合の浸水想定区域を追加しました。

土砂災害警戒区域の追加および調査区域の新規追加

・令和2年3月作成のガイドブックより新たに追加された土砂災害警戒区域及び今後の調査区域を追加で掲載しました。

災害対応ガイドブックの活用方法

自宅周辺の危険な場所、避難場所などを確認しましょう。

- ・自宅周辺に洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域などの危険な場所がないか確認しましょう。
- ・いざというときでも落ち着いて行動できるよう、避難場所までの経路を地図面に記入しましょう。

「わが家の避難ルール」や「家族の連絡先」を記入しましょう。

- ・裏表紙の「わが家の避難ルール」に、避難場所や避難を始めるタイミングなどを記入しましょう。
- ・家族や大切なものを守るためには、冷静な判断と行動力が必要です。普段から災害が起きた場合の連絡方法を決め、裏表紙の「家族の連絡先」に記入しましょう。

気象・防災情報を積極的に収集し、避難につなげましょう。

- ・普段から気象庁が発表する気象情報や国土交通省・県が発表する川の水位などの防災情報を確認する習慣をつけましょう。
- ・災害が発生するおそれのあるときは、積極的に情報を収集し、身の危険を感じたら市から発令される避難情報を待たずに早めに避難しましょう。

避難情報について

災害が発生したり、発生の可能性が高まったりした場合、田川市は防災行政無線やメールなどで避難情報を発令します。しかし、避難情報が発令されない状況でも、自らの判断で避難することもあり得ます。自分の安全は自分で確保する姿勢が重要です。「取るべき避難行動」の欄を参考に、適切な行動につなげてください。

警戒レベル4と警戒レベル5の情報を防災行政無線で放送するときは、30秒間のサイレンを鳴らして、より緊急的な内容であることをお知らせします。

警戒レベルを理解して「いつ避難するか」を考え、行動しましょう。

警戒レベル	警戒レベルに相当する気象庁が発表する気象情報	市が発令する避難情報	取るべき避難行動
警戒レベル5	大雨特別警報 キキクル（危険度分布） 「災害切迫」	緊急安全確保	災害発生 （サイレン吹鳴）※1 30秒間 命を守るための最善の行動を！ 既に災害が発生して安全な避難ができない状況です。

警戒レベル4までに必ず避難！

警戒レベル4	土砂災害警戒警報 キキクル（危険度分布） 「危険」	避難指示	災害のおそれが高い （サイレン吹鳴）※1 30秒間 危険な場所から全員避難！ 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所へ避難しましょう。
警戒レベル3	大雨警報 洪水警報 キキクル（危険度分布） 「警戒」	高齢者等避難	災害のおそれあり 避難が必要な高齢者等は避難開始！ 避難に時間を要する人（高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）は避難を開始しましょう。その他の人は避難の準備をしましょう。
警戒レベル2	大雨注意報 洪水注意報		気象状況悪化 避難行動の確認をしましょう。
警戒レベル1	早期注意情報		今後気象状況悪化のおそれ 災害への心構えをしましょう。

※大雨警報などの気象情報が発表されても、市から避難情報が必ず発令されるものではありません。気象情報を参考に、河川の水位や災害の危険度などをみて発令します。また、警戒レベルの順番で情報が出るとは限りません。状況に応じた柔軟な対応が重要です。

※1 防災行政無線からサイレンがなった後、避難や災害に関する情報を放送します。

防災行政無線の放送が聞き取れなかったときは
0120-894-215（無料）